



スター選手になって両親を楽にさせるのが夢

「目標は北京オリンピック。お父さんとお母さんのために頑張ります」
体操を4歳から始めたというだけあって、目指すところはただオリンピックのみ。迷いはなさそうである。莉娟ちゃんの家は、エンジニアだつ

「この子はね、お姉ちゃん比べるとおっとりしていて不器用なの。でもお姉ちゃんはずいぶん物事に飽きてしま

はなまなかなものではない。中国ではハングリー精神はまだ健在である。日本はオリンピックでますます苦戦を強いられそうだ。

国のスポーツ事情なども面白そう、と思えたからである。
体育館にいたのは、体操選手を目指す少女たちだった。彼女たちは湖北省少年体操隊に所属するスポーツ・エリートだという。武漢はもともと体操の

盛んなところとして知られ、中でもここは今までに3人も金メダリストを生んだという名門クラブ。入門できるのは、選りすぐられた子どもたちばかりである。
目を凝らしても素人目には誰が一番上手なのかはよくわからない。ただ小柄ながら、敏捷な動きで私の目を引いたのは、高莉娟ちゃんという12歳の少女だった。

た父親がリストラ寸前で、月収は母親と合わせても10000元(1元約13.36円)だけ。そのうち莉娟ちゃんの寮の食事代に3600元、指導料に年間20000元。試合の遠征費などもバカにならない。家計のやりくりはギリギリである。儉約に儉約を重ねながら、それでも高一家は莉娟ちゃんに体操を続けさせている。将来、オリンピック選手ともなれば、国家的英雄として高収入が約束されるからだ。そんな両親の期待を背負いながら頑張る莉娟ちゃんもなかなかかけなげである。

世界を目指す厳しい練習にも耐えることができるのは、そんな事情があるからだ。彼女だけでなく、どの少女たちも口を真一文字に結んだまま、凛々しくたくましい。
ミスをした選手は、コーチに個室へ呼ばれ、叱責を受ける。部屋からバシツ、バシツという破裂音が聞こえてくる。どうやらコーチはビンタを食らわせているらしい。それでも部屋を出た子どもたちは、少し青ざめた表情で黙々と練習に戻っていく。弱音を吐いたり、動じる気配はない。その精神力はなまなかなものではない。

12 武漢
長江
を行く



オリンピックをめぐって

街の体育館で少女たちが体操の訓練を受けていた。めざすはもちろん国家の英雄たるオリンピック選手。両親の期待が少女の小さな肩にずっしりとかかっていた。

う。その点、莉娟は時間がかかるけど粘り強くて出来はいい」と母親の乗珍さん。
莉娟ちゃんは赤ん坊の頃から病弱で、すぐ風邪を引いていた。将来を憂いた両親が健康のためにと選んだスポーツが体操だった。それが今では一家の希望そのものとなった。むろん、親に苦勞をかけているということは、莉娟ちゃんも心に痛いほど感じているらしい。

半日ほど新聞読みに費やした季丹の返事は、「たいして面白いことないねえ。この街はただっ広いだけでつまらない」と素っ気ない。「何かひとつぐらい興味の持てそうなものはないの?」と彼女をせつつきながら、あれでもないこれでもない議論を繰り返した結果、とりあえずホテルの近くにある体育館へ足を運ぶことになった。北京オリンピックもあることだし、中

莉娟ちゃんの得意種目は平均台。毎日の練習も苦にならない



野中章弘
1953年 兵庫県生まれ。アジアをフィールドに活字、写真、ビデオによるレポートを続ける。著書に「沈黙と微笑」「絆と絆」など。早稲田大学、東京大学講師。アジアプレス代表。



寮の仲間たち。武漢の子どもたちも寮生活をする